

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

当事者A	年齢[39]歳、勤続年数[21]年、現場経験年数[10]年、階級[消防士長]、同様の活動[初めて]、任務[隊員]
当事者B	年齢[59]歳、勤続年数[39]年、現場経験年数[20]年、階級[消防司令補]、同様の活動[初めて]、任務[車長]
当事者C	年齢[34]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士長]、同様の活動[初めて]、任務[]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	AとB	コンビニエンスストアのトイレ内にいた傷病者と接触、観察した後、傷病者から「酒を飲みすぎた大丈夫だから病院には行かない」と聴取。	傷病者はコンビニエンスストア前にたむろしていた若者グループのリーダー格。
経過2	C	現場の雰囲気の様相から、救急車両等に対する危害に備え、車両待機。	
経過3	B	傷病者に対し病院へは行かない旨の再確認。	
経過4	A	不搬送処理書（証明書）作成のため車両に用紙を取りに戻った。	
経過5	A	用紙を持って車両から降りた直後、目の前約1mのところに入った紙パックが群衆の中の何者かにより投げつけられた。	群衆の中の数名が、投げつけたと思われる者に対し、笑いながら「やめなさい」といっていた。
経過6	AとB	119番通報した傷病者の友人なる者に、Aが持ってきた不搬送処理書の用紙に必要事項を記入させコンビニエンスストアを出た。	
経過7	A・B・C	現場から引揚げた。	
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険情報を把握、予見できた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。たまたま、負傷事故にならなかった。

心理・体調について

a . あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b . 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

その他

l . その他の理由があった。

はい：野次馬の飲酒、群集心理を含めた状況判断が不十分であった。
